

飼い主と同じように、犬も豊かな感情と、1頭1頭、異なる個性をもっています。家族に迎えたら、犬の気持ちも尊重してあげましょう。よく観察すると、犬の気持ちはボディランゲージとして表れています。

たとえば、ある人が、生まれて間もない子犬のいる家を訪ねた時、こんなことがありました。母犬は子どもが心配で、知らない人にはさわらせたくありません。ストレートな表現をする犬なら訪問客に「ウウツ」と唸ったりするものですが、その母犬はやさしい性格だったので、訪問客と子犬の間に横たわり、自分をなでさせました。これは、身を挺して子犬を守る行動だったのです。

少し注意深く犬を見ると、犬が発しているメッセージがわかってきます。飼い主が犬の気持ちをわかろうとして見るようになると、犬が飼い主を見る目も変わってきます。子犬を守った母犬の場合も、犬が訪問客に対してしたことを飼い主が

理解し、「えらいね」とほめてあげると、それが犬にとつての自信になるのです。犬のボディランゲージを理解しようとするのが、犬と飼い主の信頼関係を築くためには、もつとも大切なことなのです。

叱るだけではなく、褒めて育てる

たとえばトイレを教える場合。粗相をしてしまった時、犬をたたいたり、粗相した場所に鼻をこすりつけて叱ったりすることが、しつけ、といわれたことがあります。でも、自分の子どもに対して、そんな叱り方をする人がいるでしょうか。失敗を叱るのではなく、「ここでしてね」と教えてあげればいいのです。そうすれば、叱られることを恐れて、隠れてするようになると、我慢して調子を崩してしまうようなこともなく、スムーズに排泄できるようになります。

上手にできた時に飼い主が喜ぶことで、犬はとてもうれしくなり、さらに喜んでもらえる行動をとりたいと思いはじめます。

第2章 犬とのコミュニケーション

犬と人の関係は、大きく変わりました。

昔は犬は庭先において、飼い主とは別々の生活がありましたが、

今は両者が密接な関わりをもつことが多くなっています。

犬とのコミュニケーションの取り方次第で、心のつながりのある関係が育まれます。